

平成 28 年度全国学力・学習状況調査「習志野市」の分析結果のお知らせ

習志野市教育委員会

文部科学省では、「全国学力・学習状況調査」を平成 19 年度から実施しております。本年度は平成 28 年 4 月 19 日に全国一斉に行われ、習志野市でも小学校第 6 学年、中学校第 3 学年を対象として実施いたしました。

本市では昨年度から、結果について、対象児童生徒への個人票の配付のほか、各小・中学校が学校だより等で自校の傾向、改善点等をお知らせしています。

本年度も広く市民の皆様に、本市の児童生徒における本調査の成果や課題について御理解をいただきたく、本調査の結果をお知らせすることといたします。

お知らせする内容は、次のとおりです。

- ◇ 国語，算数・数学に関する，調査の実施結果。主として「知識」「活用」に関する問題の平均正答率（小数第 1 位の四捨五入の数値）について（全国・千葉県・習志野市の比較）
- ◇ 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査の結果について
- ◇ 各教科の成果と課題について
- ◇ 調査結果の考察及び今後の取組について

詳細につきましては、別紙「平成 28 年度全国学力・学習状況調査『習志野市』の分析結果」の 2 ページから 14 ページに記載しております。（国立教育政策研究所のホームページで、「調査問題・正答例・解説資料」を閲覧することができます。）

さて、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえ、お知らせする内容につきましては、序列化や過度な競争につながらないように十分配慮しております。

また、各学校の平均正答数や平均正答率などの数値についてはお知らせいたしませんので、御理解いただきますようお願いいたします。

平成 28 年度「習志野市」の分析結果

1 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語，算数・数学）

① 主として「知識」に関する問題（A）

- 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など

② 主として「活用」に関する問題（B）

- 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 など

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

① 児童生徒に対する調査

- 学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査

② 学校に対する調査

- 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(3) 実施学校数・児童生徒数

	4月19日に実施した学校数	当日実施した児童生徒数 ※
小学校	16校	1,416名
中学校	7校	1,274名

※ 後日実施した児童生徒の結果は集計値に含まれません。当日未実施者は小学校15名，中学校113名。

2 教科に関する調査の実施結果（公立）

(1) 平均正答率（一覧表）

※ 小数第1位の四捨五入の数値

	教科等	国語		算数・数学	
		A「知識」	B「活用」	A「知識」	B「活用」
小学校	習志野市	75	60	80	50
	千葉県	73	58	77	47
	全国	73	58	78	47
中学校	習志野市	78	69	64	46
	千葉県	76	67	60	43
	全国	76	67	62	44

(2) 結果の概要

【小学校】

- ◇ 国語A（知識）2ポイント、国語B（活用）2ポイント、全国平均を上回りました。
- ◇ 国語A（知識）、国語B（活用）のどちらとも、昨年度と比べ上回り方は小さくなりました。
特に国語A（知識）は、全国平均との差の縮まり方が著しくなりました。
- ◇ 算数A（知識）2ポイント、算数B（活用）3ポイント、全国平均を上回りました。
- ◇ 算数A（知識）は、昨年度と比べ上回り方は大きくなり、算数B（活用）は、昨年度と比べ上回り方は小さくなりました。
- ◇ 算数A（知識）と算数B（活用）との正答率を比べると、一昨年度、昨年度とも算数B（活用）の上回り方が大きい傾向が見られました。

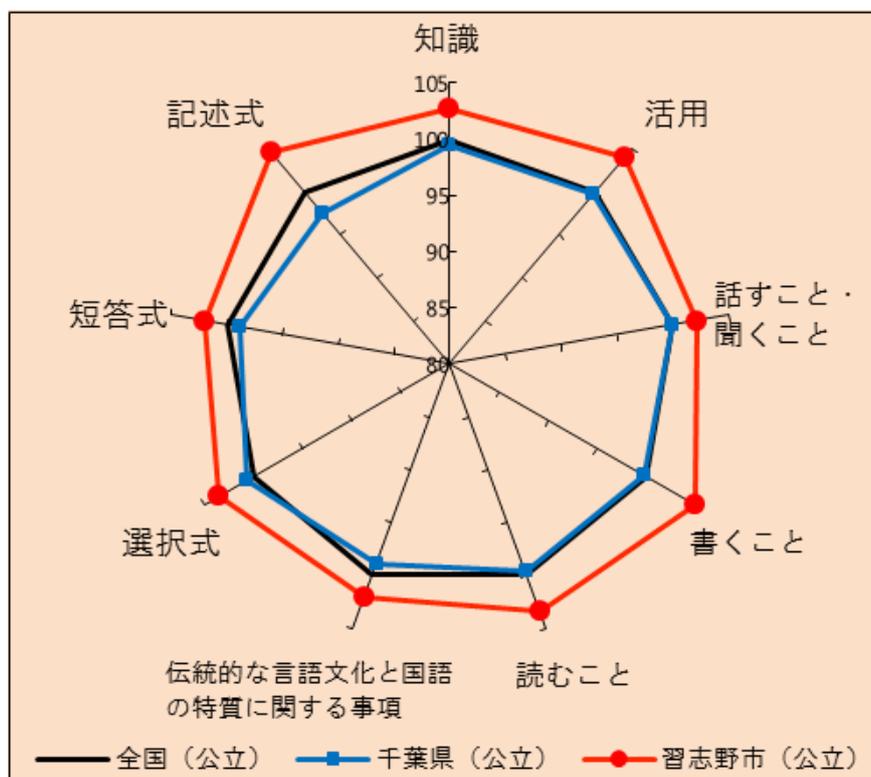
【中学校】

- ◇ 国語A（知識）2ポイント、国語B（活用）2ポイント、全国平均を上回りました。
- ◇ 国語A（知識）、国語B（活用）のどちらとも、昨年度と比べ上回り方は小さくなりました。
特に国語B（活用）は、全国平均との差の縮まり方が著しくなりました。
- ◇ 国語A（知識）と国語B（活用）との正答率を比べると、一昨年度、昨年度とも国語B（活用）の上回り方が大きい傾向が見られました。
- ◇ 数学A（知識）2ポイント、数学B（活用）2ポイント、全国平均を上回りました。
- ◇ 数学A（知識）、数学B（活用）のどちらとも、一昨年度、昨年度と比べ上回り方は小さくなりました。

3 各教科の成果（○）と課題（△）

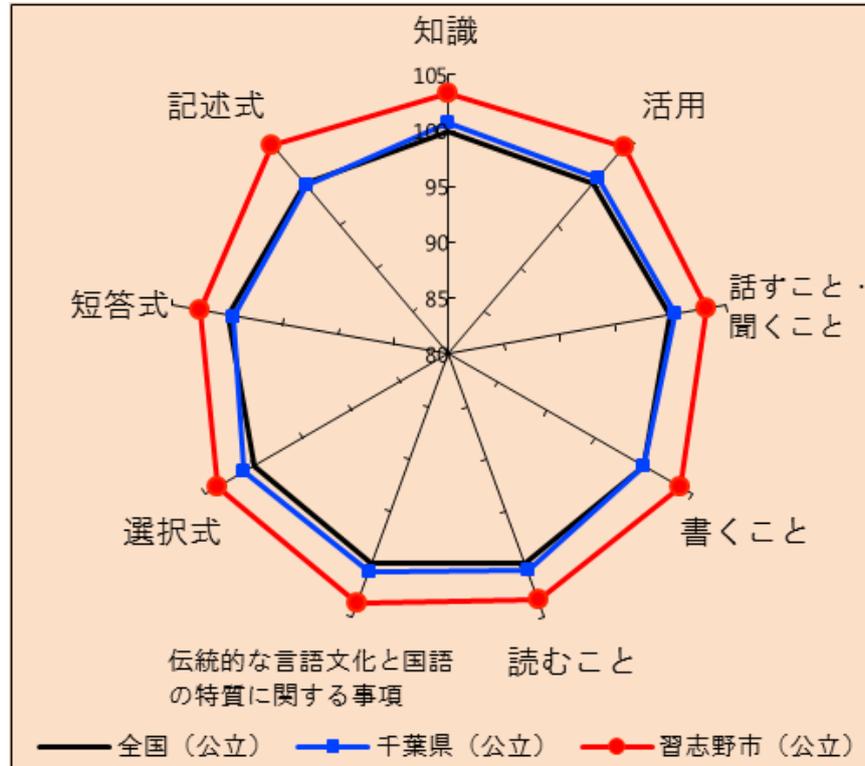
（1） 国語（全国平均を 100としたときの本市の得点状況＝相対値）

【小学校】※ 小数第 1 位の四捨五入の数値



- 国語A（知識）は相対値（103）、国語B（活用）は相対値（104）で、ともに全国平均（100）を上回りました。
- 「書くこと」の相対値（105）が全国平均を最も大きく上回りました。
- 問題形式「記述式」は相対値（105）で、昨年度を上回りました。
- △ 「話すこと・聞くこと」は相対値（102）で、昨年度を下回りました。
「話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること」がやや課題です。
- △ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は相対値（102）で、昨年度を下回りました。「平仮名で表記されたものをローマ字で書くこと」の無回答率が10パーセント以上あり課題です。

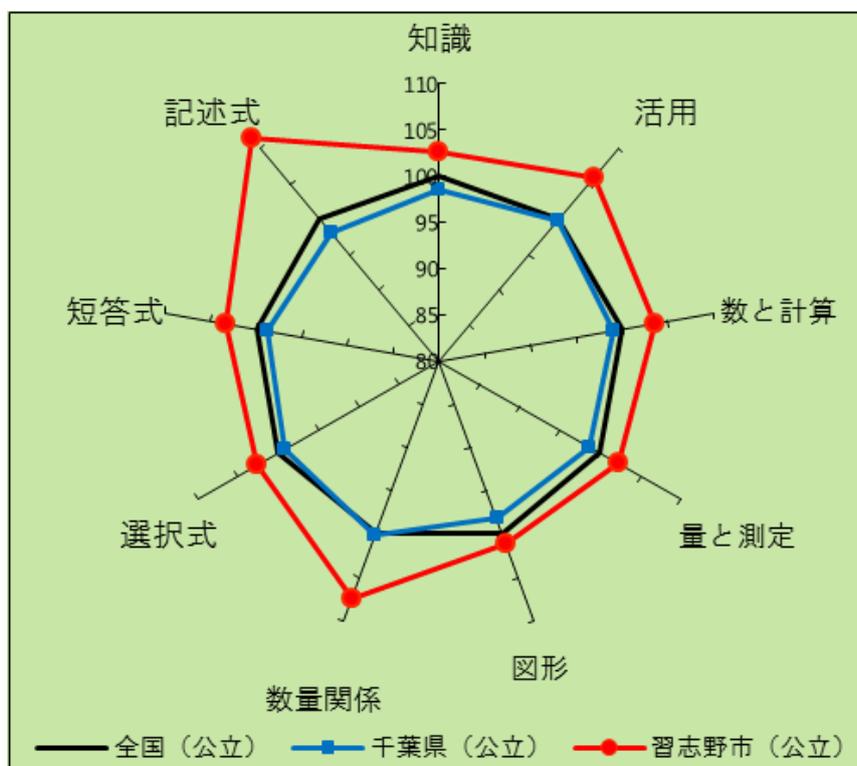
【中学校】※ 小数第1位の四捨五入の数値



- 国語A（知識）は相対値（103）、国語B（活用）は相対値（104）で、ともに全国平均（100）を上回りました。
- 「話すこと・聞くこと」（103）、「書くこと」（104）、「読むこと」（103）、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」（104）で、どの領域も全国平均を均一に上回りました。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の相対値（104）は、昨年度をやや上回りました。
- △ 問題形式「記述式」は相対値（105）で全国平均は上回りましたが、昨年度を下回りました。
- △ 国語B（活用）では「課題を決め、それに応じた情報収集を考えることができるかどうかをみる」ための問題の正答率が全国値を下回りました。自ら設定した課題を解決するために、学校図書館を活用して必要な本をどのように探すかを考えることが課題です。

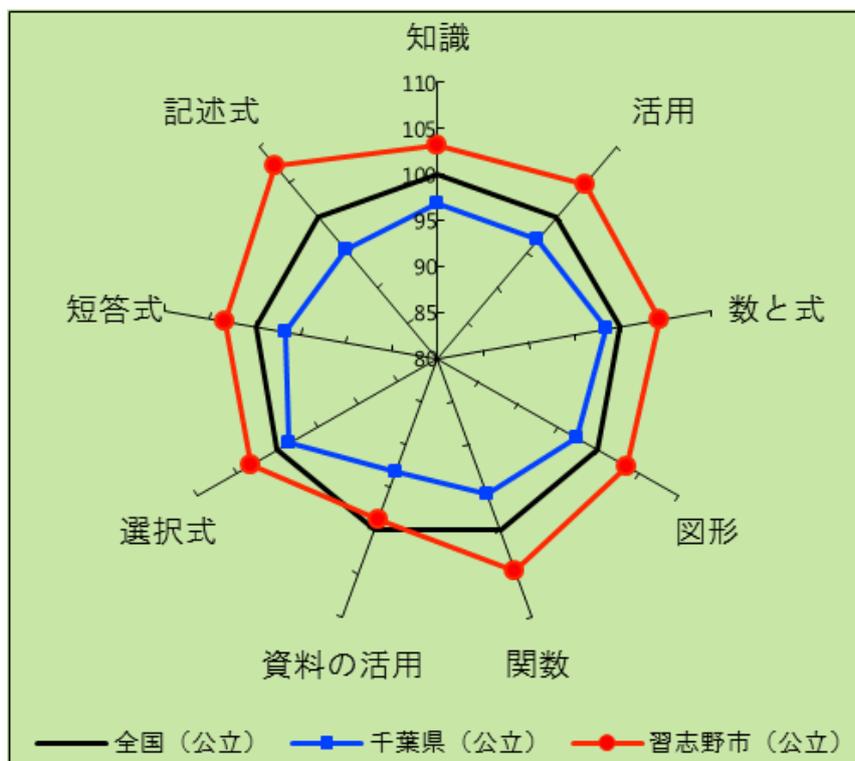
(1) 算数・数学（全国平均を100としたときの本市の得点状況＝相対値）

【小学校】※ 小数第1位の四捨五入の数値



- 算数A（知識）は相対値（103）、算数B（活用）は相対値（106）で、ともに全国平均（100）を上回りました。
- 「数量関係」の相対値（107）は、昨年度をやや上回りました。
- 問題形式「記述式」は相対値（112）であり、昨年度と同じように全国平均（100）を上回りました。
- △ 「図形」は相対値（101）で、昨年度を下回りました。「図形の構成要素に着目して、論理的に考察すること」がやや課題です。
- △ 「量と測定」は相対値（102）で、昨年度を下回りました。「示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味を記述すること」は、市、県、国ともに正答率10パーセント以下であり課題です。

【中学校】※ 小数第1位の四捨五入の数値

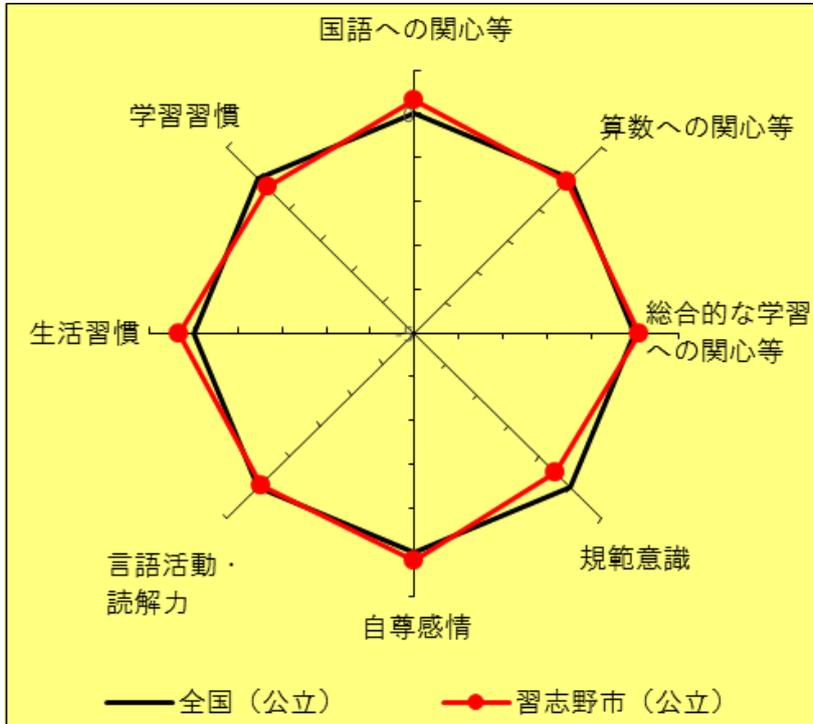


- 数学A（知識）は相対値（103），算数B（活用）は相対値（105）で，ともに全国平均（100）を上回りました。
- 「数と式」（104），「図形」（104），「関数」（105），であり，3つの領域で全国平均（100）を上回りました。
- 問題形式の「選択式」（103），「短答式」（103），「記述式」（107）で，ともに全国平均（100）を上回りました。
- △ 「資料の活用」は相対値（99）で全国平均（100）及び昨年度を下回りました。
「目的に応じて資料を収集し，コンピュータを用いたりするなどして表やグラフに整理し，代表値や資料の散らばりに着目してその資料を読み取ること」や「確率の必要性と意味を理解し，簡単な場合について確率を求めること」が課題です。
- △ 「関数」は相対値（105）で，昨年度を下回りました。「一次関数について，表，式，グラフを相互に関連付けて理解すること」がやや課題です。

4 児童生徒質問紙調査の結果

(1) 結果の概要（比較基準となる母集団を全国（公立）としたチャート図）

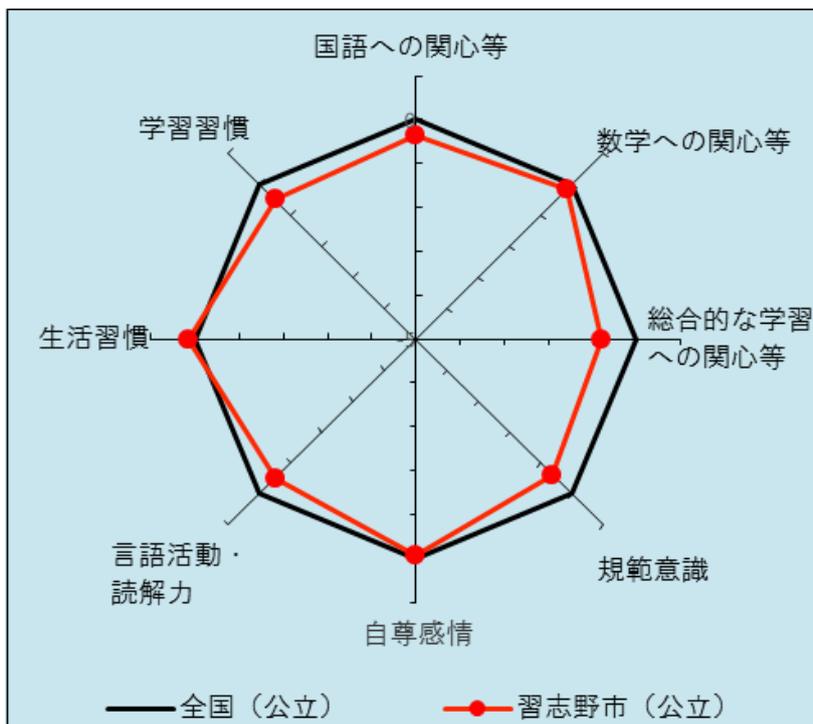
【小学校】児童



児童においては、「基本的な生活習慣」「自尊感情」「国語科への関心等」の領域が、全国平均を上回りました。

家庭での「学習習慣」を身に付けたり、「規範意識」をさらに向上させたりすることが課題です。

【中学校】生徒



生徒においては、「基本的な生活習慣」の領域が全国平均を上回り、他の領域については全国平均を下回りました。

特に「総合的な学習の時間への関心等」について改善したり、「規範意識」「学習習慣」をさらに向上させたりすることが課題です。

(2) 主な質問の結果 (全85項目うち全国値と比較して5ポイント以上差があった質問)

【小学校】児童

質問事項	回答内容	(全国比)	習志野市	県	国
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)	持っていない	(-7.3)	31.6	35.4	38.9
学習塾(家庭教師を含む)で勉強をしていますか	学習塾に通っていない	(-6.3)	47.6	49.1	53.9
昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか	だいたい週に4回以上	(-1.5)	1.6	2.4	3.1
	週に1～3回程度	(-7.1)	6.2	11.5	13.3
家で、学校の授業の復習をしていますか	している	(-5.3)	18.2	19.6	23.5
家で、予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか	している	(-5.1)	29.4	29.7	34.5
今住んでいる地域の行事に参加していますか	当てはまる	(-10.8)	28.3	30.2	39.1
テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか(携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む)	よく見る	(+8.8)	66.0	61.7	57.2
「総合的な学習の時間」の勉強は好きですか	当てはまる	(+8.6)	46.0	39.6	37.4
5年生までに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	当てはまる	(-7.8)	49.1	48.2	56.9
国語の勉強は好きですか	当てはまる	(+8.4)	32.1	25.9	23.7
国語の勉強は大切だと思いますか	当てはまる	(+5.5)	71.4	64.5	65.9
読書は好きですか	当てはまる	(+6.6)	55.9	50.2	49.3
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	当てはまる	(+5.8)	44.1	36.8	38.3
調査問題の解答時間は十分でしたか(国語B)	時間が余った	(+5.7)	41.9	37.5	36.2

- ◇ 図書館や図書室の利用率が少ないです。「ほとんど、または、全く行かない」という児童は 34.6%（全国値 31.1%）でした。
- ◇ 「地域の行事への参加」について、昨年度は「あてはまる」23.4%，本年度は 28.3% となり改善傾向が見られます。しかし、全国値と比べると未だ 10 ポイント以上の差（昨年度は 13.5 ポイント差）があります。
- ◇ 「総合的な学習の時間」が好きな児童の値が全国値より 8.6 ポイント上回りました。昨年度、同じような質問（全く同一ではない）で、総合的な学習の時間への関心を調査した結果、本市児童は全国値とほぼ同じでした。
- ◇ 「国語の勉強」「読書」に対する関心・意欲・態度が全国値と比べ高いです。

【中学校】生徒

質問事項	回答内容	(全国比)	習志野市	県	国
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	している	(+5.0)	60.9	57.0	55.9
普段（月～金曜日），1日当たりどれくらいの時間，携帯電話やスマートフォンで通話やメール，インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）	持っていない	(-5.1)	13.7	14.0	18.8
学習塾（家庭教師を含む）で勉強をしていますか	学習塾に通っていない	(-11.7)	27.2	32.6	38.9
学校の授業時間以外に，普段（月～金曜日），1日当たりどれくらいの時間，読書をしますか（教科書や参考書，漫画や雑誌は除く）	全くしない	(-5.6)	31.6	32.5	37.2
昼休みや放課後，学校が休みの日に，本（教科書や参考書，漫画や雑誌は除く）を読んだり，借りたりするために，学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか	ほとんど、または、全く行かない	(+7.0)	65.0	60.9	58.0
家で，学校の宿題をしていますか	している	(-10.4)	57.7	61.3	68.1
家で，学校の授業の復習をしていますか	している	(-5.1)	13.3	17.4	18.4
今住んでいる地域の行事に参加していますか	当てはまる	(-7.3)	11.8	14.4	19.1

質問事項	回答内容	(全国比)	習志野市	県	国
地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか	参加したことがある	(-10.9)	37.8	42.8	48.7
学校の規則を守っていますか	当てはまる	(-8.9)	52.7	60.3	61.6
友達との約束を守っていますか	当てはまる	(-5.0)	63.5	66.8	68.5
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	当てはまる	(-5.9)	68.9	71.4	74.8
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの活動に取り組んでいますか	当てはまる	(-7.5)	10.6	14.6	18.1
1, 2年生のときに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか	当てはまる	(-6.3)	16.0	20.7	22.3
1, 2年生のときに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	当てはまる	(-6.3)	16.0	20.7	22.3
読書は好きですか	当てはまる	(+7.7)	54.2	51.0	46.5
調査問題の解答時間は十分でしたか(国語B)	時間が余った	(+5.7)	54.5	50.4	48.8

- ◇ 図書館や図書室の利用率が少ないです。「ほとんど、または、全く行かない」という生徒は 65.0% (全国値 58.0%) でした。
- ◇ 「地域の行事への参加」について、昨年度は「あてはまる」9.3%、本年度は 11.8% となり改善傾向が見られます。しかし、全国値と比べると未だ 7 ポイント以上の差 (昨年度は 8.2 ポイント差) があります。
- ◇ 学校図書館・学校図書室や地域の図書館に「ほとんど、または、全く行かない」生徒が全国値を 7 ポイント上回り、それに相対して「読書は好き」な生徒が全国値を 7.7 ポイント上回りました。

5 調査結果の考察及び今後の取組

【小学校】

- (1) 教科に関する実施結果のうち小学校第6学年の「国語」について、「話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること」にやや課題があるので、今後は次の手立てにより改善していきます。

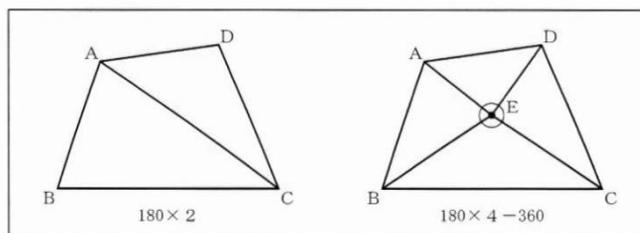
- インタビューの目的に応じて、相手の意図は何か、自分の予想との違いは何か、自分の考えとの共通点や相違点は何かなどを観点として、相手の話を注意深く聞くことができるようにします。
- 相手の話に同意した上で質問したり、相手の話を言い換えてから質問したり、話題を変えて質問したりするなどの質問の仕方を取り上げて指導します。

- (2) 教科に関する実施結果のうち小学校第6学年の「国語」について、「平仮名で表記されたものをローマ字で書くこと」に課題があるので、今後は次の手立てにより改善していきます。

- 日本語の音節が子音と母音の組み合わせであることを意識し、五十音表の規則性を確実に押さえるようにします。
- 当該学年（第3学年）での学習にとどまらず、他教科等でコンピュータを使った学習と関連付けるなどして、繰り返し読んだり書いたりする機会を増やしていきます。

- (3) 教科に関する実施結果のうち小学校第6学年の「算数」について、「図形の構成要素に着目して、論理的に考察すること」にやや課題があるので、今後は次の手立てにより改善していきます。

- 児童が互いに図や式の意味を解釈し説明し合う活動を設けるようにします。
例えば、四角形の四つの角の大きさの和が 360° になることを考える場面において、 180×2 や $180 \times 4 - 360$ などと表現された式の意味について図に表しながら解釈し説明し合う場を設けます。その際、「なぜ、 360 をひくのですか。」と問い返すなどして、
式の意味について過不足なく説明できているかどうかを児童どうしが確認する活動を充実させます。



【中学校】

- (1) 教科に関する実施結果のうち中学校第3学年の「国語」について、「日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること」や「本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること」に課題があるので、今後は次の手立てにより改善していきます。

○ 文章の構成を捉えて内容を整理する

説明的な文章を読む際には、全体的な構成を捉えて、文章の内容を理解するようにします。特に、項目が立てられた文章では、見出しに着目して読むことで大まかな内容が把握できることに気付くようにします。また、図表や写真などが用いられた文章では、図表が文章のどの部分と関連しているのかを確認するなどして、書き手の伝えたい内容をよりの確に読み取ることができるようになります。

○ 目的に応じて情報を整理し、要約する

文章を要約したり要旨を捉えたりする際には、目的や必要に応じて情報を選択して整理するようにします。そのために、例えば、カードなどを活用して情報を整理し、要約する学習活動をするなど、内容のまとまりを捉えるとともに、中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、内容を正確に理解することができるようにします。

○ 自ら課題を決め、解決するための方法を考える

文章を読んでものの見方や考え方を広げるために、書かれている内容を正しく理解するとともに、新たな疑問や課題の有無について吟味するようにします。例えば、互いの感想を交流して疑問点を出し合い、新たな課題を設定する学習活動などを取り入れます。また、課題を解決するためには、目的に応じて適切な情報を収集する必要があることから、新聞や雑誌、コンピュータや情報通信ネットワークなどの様々な情報手段、学校図書館などの活用を図るようにします。学校図書館を利用する際には、目的に照らして必要な本や資料を探すことができるようにします。なお、本や資料を探す際には、以下のような点に留意します。

- ・ テーマやジャンルなどに注目する
- ・ 書名や著者に注目する
- ・ 目次、索引、奥付、まえがき、あとがきなどを参考にする など

- (2) 教科に関する実施結果のうち中学校第3学年の「数学」について、「目的に応じて資料を収集し、コンピュータを用いたりするなどして表やグラフに整理し、代表値や資料の散らばりに着目してその資料を読み取ること」に課題があるので、今後は次の手立てにより改善していきます。

○ 近似値と誤差の意味を理解できるようにするために、測定値には誤差があり、真の値の近似値であることを、実感を伴って理解できるようにする場面、例えば、感量が異なる2つのはかりを示したり、数直線を用いたりします。

- (3) 教科に関する実施結果のうち中学校第3学年の「数学」について、「確率の必要性和意味を理解し、簡単な場合について確率を求めること」について課題があるので、今後は次の手立てにより改善していきます。

○ 確率を求めることができるようにするために、「同様に確からしい」ときに起こり得る場合の数を数え上げることによって確率を求める場面、例えば、硬貨を投げる試行において、起こり得る場合に表と裏があり、それぞれの場合が同様に確からしいことから、3回目までに表と裏がどのように出ても、その出方は4回目の表と裏の出方に影響しないことを確認する場を設定したりします。また、トランプを使って偶数のカードをひく確率や絵札をひく確率を求める活動を取り入れたりします。

- (4) 教科に関する実施結果のうち中学校第3学年の「数学」について、「一次関数について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解すること」にやや課題があるので、今後は次の手立てにより改善していきます。

- グラフを用いて変域を視覚的に捉える活動を取り入れ、変域を求めることができるようにします。
- 関数関係を表す表から変化や対応の特徴を捉え、対応する値を求めることができるようにします。
- 数学的な結果を事象に即して解釈できるようにするために、問題解決において用いたグラフを事象に即して捉え直す活動を取り入れたりします。

具体的な取組については、各学校の実態に応じて工夫していきます。